

異文化経営学会「アーリーステージリサーチセッション(ESR セッション)」設立趣意書

異文化経営学会理事・事務局長 高橋俊一(立正大学)

1. 設立趣意

異文化経営学会(以降、「本学会」とする)では、2003年の設立以来、その趣旨(パーパス)に則り、自己研鑽のための門戸を研究者に限らず実務家や大学院生にも広く開いてきた。また、研究報告の機会に関しても、実務家や大学院生から広く募り、また報告機会を与えてきた。一方で、学会の役割としての研究者育成(養成)という観点から、彼らの研究すなわち(学位)論文を執筆するための手助けの必要性は、より増していると考えられる。そこで、本学会では、特に異文化経営に関連した分野を専攻し、今後研究者を志望する大学院生(社会人大大学院生を含む)が、より良い(学位)論文を執筆するために資するべく、アーリーステージリサーチセッション(ESR セッション)を設ける。

2. 本部会の特徴

(ア) 報告者対象が限定されること

- ① 研究者を志望する大学院生(社会人大大学院生を含む)から報告を募る。
- ② 研究手法、論文執筆方法等に関して、参加者から助言を求める。

(イ) 本学会における研究大会や部会の報告形式とは異なること

- ① Doctoral Consortium や院生ゼミのような形で実施し、完成度は問わない。
- ② オープンな議論をより重視する。

(ウ) 報告者に本学会における継続的な学会活動を促す

- ① 報告後は、本学会における他の報告機会(研究大会、地域部会、機能部会など)での報告、また学会誌『異文化経営研究』への論文投稿を促す

3. 世話人

高橋俊一理事・事務局長をチェアとし、古川裕康幹事、鈴木仁里幹事をチェアを支えるメンバーとする。